

2. 講師及び司会者紹介

赤上 剛 (あかがみ たけし)

1941 年栃木県茂木町生まれ。早稲田大学法学部卒。渡良瀬川研究会副代表。

『田中正造とその周辺』（随想舎 2014）論文「日清戦争前後の田中正造の行動と思想」（『救現』11 号所収）、「直訴論の再検討」「田中正造没後 100 年、3.11 事件 3 年目の課題」（いずれも『田中正造と足尾鉍毒事件研究』14 号、16 号所収）ほか多数。『下野新聞』に「正造の言葉」を昨年 4 月から 10 月末まで毎週連載。

朴 孟洙 (パク メンス)

1955 年生まれ。韓国・円光大学校教授 学生福祉処長。

北海道大学大学院文学研究科博士課程修了（文学博士）。1980 年代後半より東学および東学農民革命に関する研究を行いつつ、ハンサリム運動（生命・環境運動）の指導者として活動。著書『開闢の夢、東アジアをめざめさせるー東学農民革命と帝国日本』『東学農民戦争と日本』訳書『景福宮を占領せよ』ほか韓国語論文多数。

鈴木 聡 (すずき さとし)

1952 年足尾に生まれる。1993 年荒廃した足尾の自然を取り戻そうと、仲間たちと共に「足尾ネイチャーライフ」を結成し初代会長になる。2012 年「足尾に緑を育てる会」初代会長神山英昭氏の死去に伴い、2 代目の会長となる。

辻岡 幹夫 (つじおか みきお)

1950 年	大阪市生まれ
1973 年	大阪府立大学農学部卒業
1973 年～2011 年	栃木県庁に勤務、日光・足尾の自然環境保全・野生動物対策に長年従事
2011 年～	一般財団法人自然公園財団 日光支部に勤務

高際 澄雄 (たかぎわ すみお)

宇都宮大学名誉教授。宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 前センター長。放送大学客員教授。

専門領域イギリス文化・文学研究。主として、イギリス 18 世紀文学と文化の研究に従事。現在ヘンデルの歌劇と文学の関係を調査。「ロデリック・ランドムにおける奴隷貿易」(『イギリス 18 世紀文学研究』開拓社 1996)、「ボイスの第 2 セシリアオードにおける詩と音楽」(『イギリス 18 世紀文学研究』開拓社 2010) など。

重田 康博 (しげた やすひろ)

宇都宮大学国際学部教授。

北九州市大学大学院社会システム研究科修了 (学術博士)。オックスファムジャパン監事。JVC とちぎネットワーク代表。著書『NGO の発展の軌跡』(単著、明石書店)『国際 NGO が世界を変える』(共著、東信堂)『NGO/NPO キャンペーンハンドブック』(共著、未来のための教育推進協議会)など。

丁 貴連 (チョン キリョン)

宇都宮大学国際学部教授。

筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸言語専攻修了 (文学博士)。専門領域は比較文学比較文化・日本文学・韓国文学。著書『媒介者としての国木田独歩—ヨーロッパから日本、そして朝鮮へ』(単著、翰林書房、2014)、『テキストたちの旅程—移動と変容の中の文学』(共著、花書院、2008)、翻訳書『韓国文学はどこから来たのか』(筒井真樹子との共訳、白帝社、2005) など。